

東アジア先進大都市における 「サービスハブ」の空間的形成過程

—ローカルな住宅市場を中心に—

福本 拓（宮崎産業経営大学）

コルナトウスキ・ヒェラルド（九州大学）

水内 俊雄（大阪市立大学）

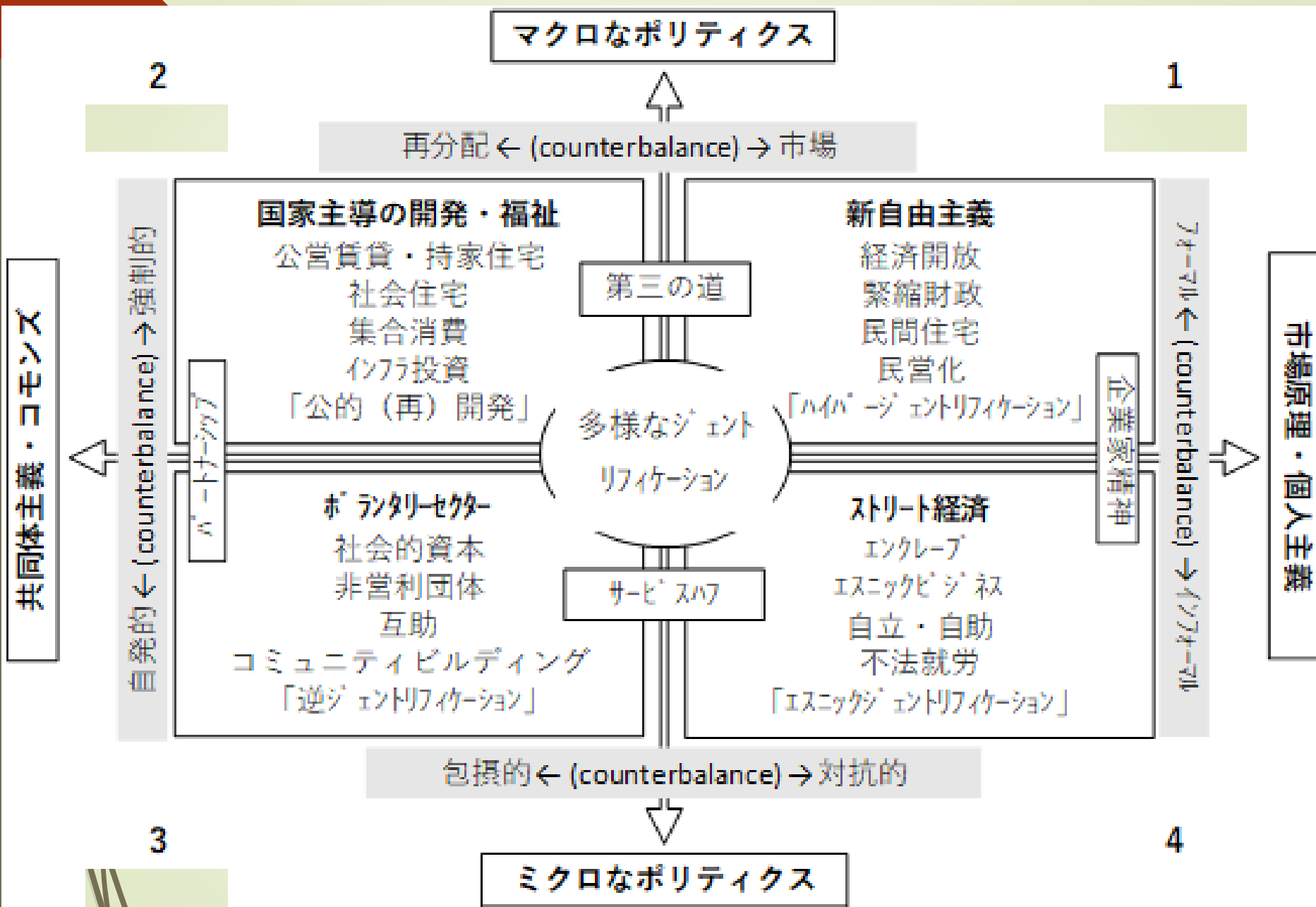
1

文部科学省「共同利用・共同研究拠点」
大阪市立大学先端的都市研究拠点・事業総括シンポジウム

2019/02/02

「サービスハブ」とは何か

- 社会的分断と社会的排除の深刻化が進行する現代都市
- 20世紀以降の都市の包摂／排除と資本循環のモデル
 - ケインズ主義的都市（再生産への投資）
 - 新自由主義的都市（レッセフェールの的）
 - ボランタリーセクター
= ケインズ主義の補填，新自由主義への対抗拠点（=包摂）



「サービスハブ」とは何か

- 都市発展における「剰余人口」の存在
 - ケインズ主義下, 新自由主義下それぞれにおいて資本蓄積の必要不可欠な要素
 - 公的な支援体制に含まれにくい+民営化の中で排除の対象となるという矛盾
- ⇒ 社会的剥奪状態, サービス依存の人口への支援施設の集積, そこでの**集積経済**の機能, さらにはその集積経済から恩恵を受ける施設の**巧妙な集積**

「サービスハブ」とは何か

■「サービスハブ」の動向

- ケインズ主義的都市の残余への支援
- 新自由主義下のジェントリフィケーションに伴う社会問題の集中，建造環境の衰退

⇒ ストリート経済（第Ⅳ象限）的な
グレーゾーンに関わる要素を積極的に
評価

⇒ 第Ⅲ象限を超えた，レジリエントかつ
新しい「サービスハブ」の形成を把握

研究対象

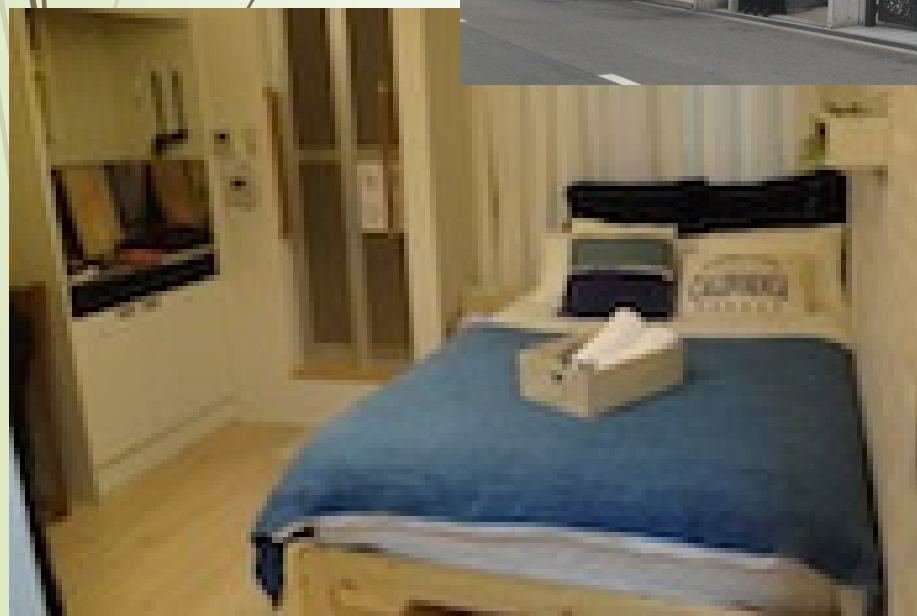
■ 東アジア大都市

■ 欧米の大都市における「サービスハブ」
≡ 公的セクターの残余 という図式

⇒ 新自由主義が席卷する中での「サービスハブ」の疲弊（or 新自由主義への対抗の拠点）

⇒ 第IV象限を積極的に認めるような都市論のあり様を、アジア先進大都市の事例から導出

「非-定住」の多様な形態と都市住宅市場



「非-定住」の多様な形態と都市住宅市場





「非-定住」の多様な形態と都市住宅市場

住まい方の6つのファクター

アライバルシティ的な、また最後のセーフティネットの効くエリアは、
暫居の機能を有していることが条件となろう

定着 ← → 暫定

→ ある意味でニューカマー、移住者、流入者を受け入れるハウジングリソース

定住

持ち家
賃貸家族世帯
旧来の住民

暫住

暫居と違い、自らの
意志で選択、転居はあり

← ワンルーム稼働層
福祉住宅
↓
↓
↓
年金、高齢福祉受給者
終の棲家化

独居

← 無料低額宿泊所 →

暫居

就労とセット

社員寮
シェアハウスもあり
飯場

滞在

身を隠す
住民票の有る無し
便宜的

簡易宿所

宿泊
stay

ホテル
民泊
ゲストハウス

野宿
houseless

一泊シェルター
ケアセンター
ホームレス自立支援センター

short stay

外国人

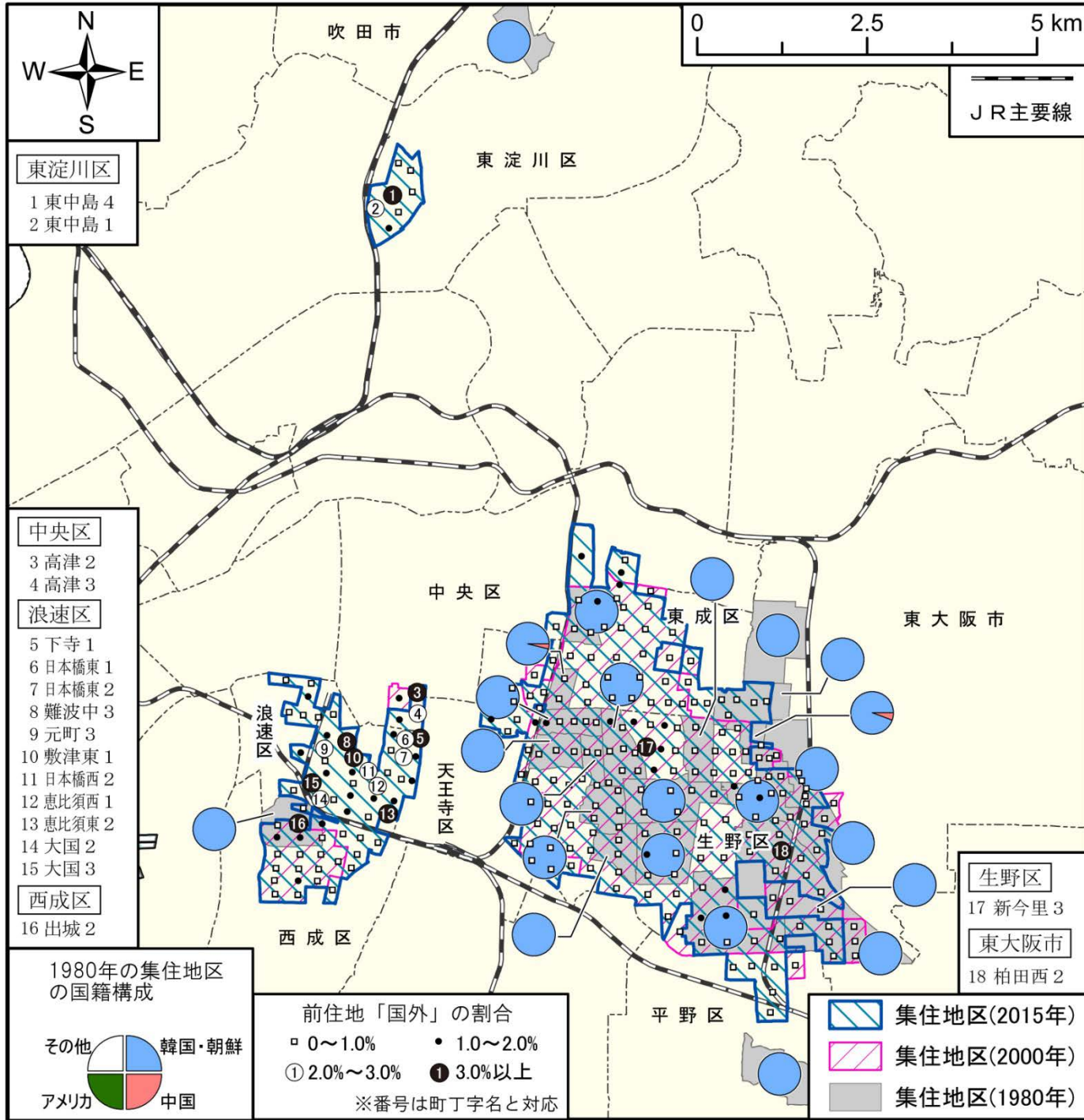
legally work with visa
ビザなし就労 longer stay with illegal work

ワーホリ
研修

※ 暫居がグレーでサブスタンダードな存在なので、devalorizationとなる。
土地差別が、
皮肉にもgentrificationの防波堤になっている

大阪市西成区のカラオケ屋台





大阪市生野区の事例



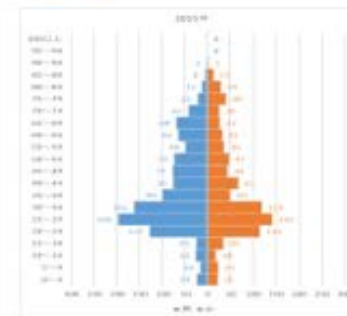
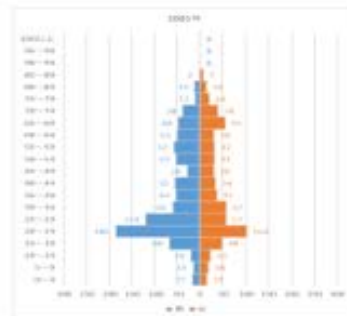
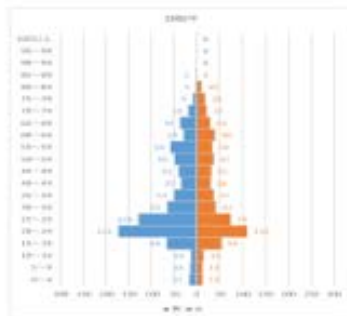
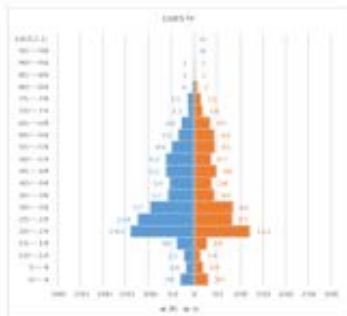
浪速区の日本語学校の事例



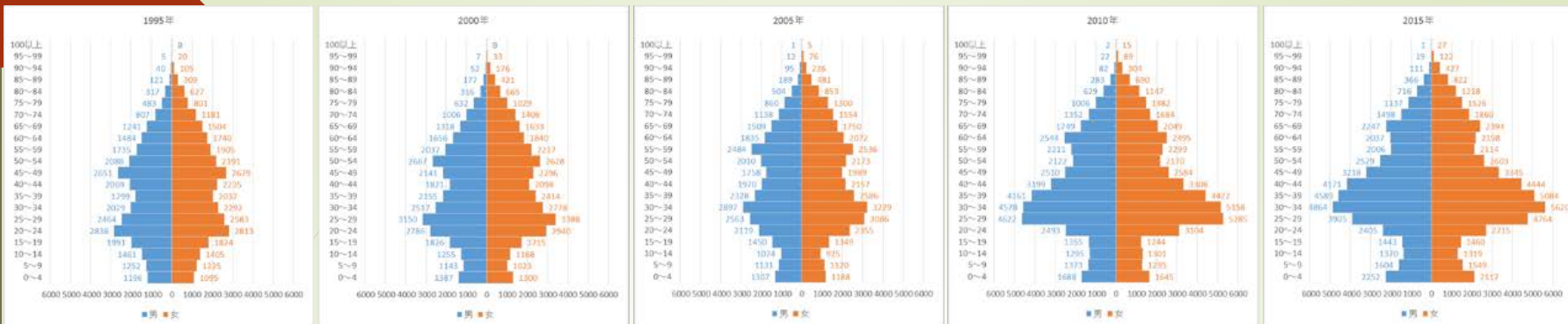
大国3丁目

注：人口ピラミッドの横幅最大値300人である

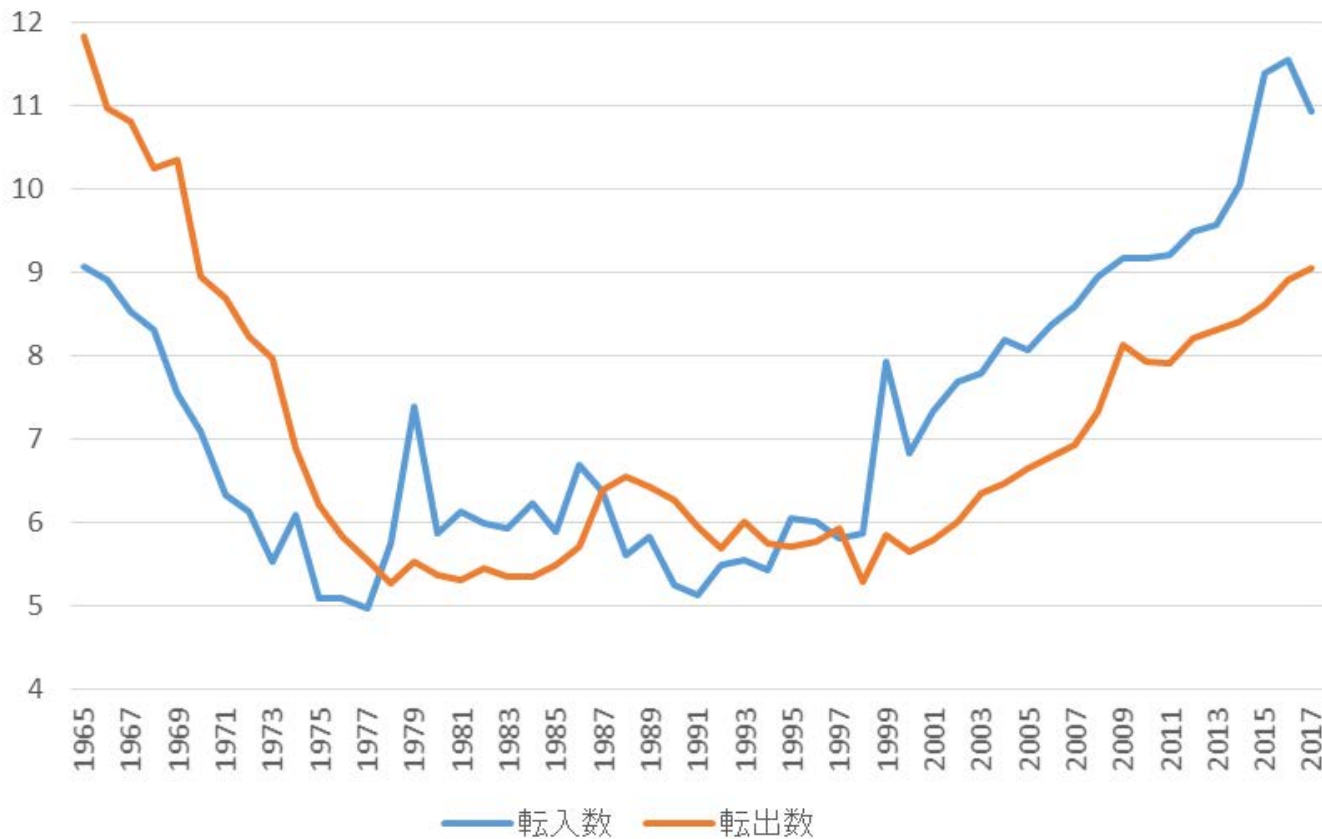
	外国人率 区内順位	外国人 人数順位	総人口	外国人人数			外国人人口率		
				総計	男外国人/ 男人数	女外国人/ 女人数	総計	男	女
2010年	11/62	3	1943	189	100/1093	89/850	9.7%	5.1%	4.6%
2015年	2/62	1	2170	361	181/1233	180/937	16.6%	8.3%	8.3%







(千人)



成果公表について

- 「最後のセーフティネット」の諸事例とその現代都市論への示唆
- 2018年度，4回の研究会
（2017年度の「包容力ある都市論の構築」研究会をベース）
- 東アジアの事例，欧米都市の理論研究との比較・対照による成果公表の目標

成果公表について

▶ 東アジア・日本 主要研究メンバー

- ▶ 福本 拓 (宮崎産業経営大)
- ▶ 水内俊雄 (大阪市立大)
- ▶ コルナトウスキ・ヒェラルド (九州大)
- ▶ 阿部康久 (九州大)
- ▶ 垣田裕介 (大阪市立大)
- ▶ キーナー・ヨハネス (大阪市立大)
- ▶ 蕭 閔偉 (大阪市立大)
- ▶ 陸 麗君 (大阪市立大)
- ▶ 川口夏希 (大阪市立大)
- ▶ 松尾卓磨 (大阪市立大・院)

▶ 海外 主要研究メンバー

- ▶ MARR, David Mathew (フロリダ国際大)
- ▶ DEVERTEUIL Geoffrey (カーディフ大学)
- ▶ OOSTERLYNCK Stijn (アントワープ大学)

成果公表について

- ▶ 水内俊雄・福本 拓編 (2017)
『都市の包容力』法律文化社
- ▶ 福本 拓ほか (2018)
「包容力ある都市論の構築—ジェントリフィケーションへの新たなアプローチを中心に—」
- ▶ Springer社より刊行予定の英文叢書
(AJG Libraryの一環として刊行)

今後の展開

- キーワード
 - 包容力
 - グレーゾーン
 - (結果としての) ジェントリフィケーションの不在
 - 移民・外国人
 - 定住・非定住のグラデーション